

令和4年度 研究実践のまとめ

研究課題

話す力を身に付け、意欲的なコミュニケーションを生み出す外国語科(活動)の指導

～ 考 え な が ら 話 す 姿 を 目 指 し て ～

【今年度の研究の振り返り】

- ・単位時間の役割を明らかにし、児童の実態に合わせて指導内容や活動などを段階的に構成したことで、児童はコミュニケーションの場面で表現活動をしながら言語材料を身に付けることができた。このことにより、単元終末での言語活動において、意欲的なコミュニケーションを生み出すことができた。
- ・伝え合って驚きや発見のある活動を設定することで伝え合う必然が生まれ、言葉を紡ぎ、工夫をしながら何とか伝え合おうと粘り強く取り組む児童の姿を生み出すことができた。
- ・Teachers' Talk による課題化をしたことで、児童に活動の見通しをもたせると共に、意欲を高めることができた。
- ・児童が「困ったな」と立ち止まり、どう表現するか悩む姿を生み出す場面を設定し、活動することができた。このことは児童が「考えながら話す姿」を生み出す基になった。
- ・コミュニケーションに関することと課題に関することを振り返り、「何が分かったのか」「それは英語で何というのか」を学級で共有することで、主体的な学びを生み出すことができた。

【来年度以降の研究の方向】

<研究の方向>

令和5年度は今年度に引き続き、教育課程特例校・市研究課題委託校として、これまで全学年で外国語科・外国語活動の研究を行う。(1・2年生が生活科の時間を利用する)

令和6年度は、特例校が外れるため、1・2年生は外国語活動を行わず、主に生活科の学習を通して、「話す力を身に付け、意欲的なコミュニケーションを生み出す」学習指導の研究の在り方を研究していく。

<研究内容の重点>

①効果的な Half Time の在り方

- 知りたい表現の習得
- 児童の状況に即した柔軟な支援

②使いながら習得していくための Play Time の在り方

- やりとりの回数が増える活動内容
- 発音する回数が増える場面・状況

③伝えたいことを伝えられたと実感できる評価の在り方

- 学習課題に関わる到達度
- 学習姿勢に関わる評価